

「2025年度 清水庁舎の整備方針(案)」についての 市民説明会(11/11)に係る議事録の公表

1 市民説明会概要

日 時:2025 年11月 11 日(火曜日) 19 時から 20 時 41 分まで
場 所:静岡市役所清水庁舎3階ふれあいホール(清水区旭町6番8号)
来 場 者:約 100 名 うち質問人数 11名
説 明 者:社会共有資産利活用推進課 岡村課長
質疑回答者:市長

2 議事録を公表する目的

2025 年 11 月 11 日、清水庁舎において、「2025年度 清水庁舎の整備方針(案)」についての説明会を開催して、来場者数は約 100 人でした。

説明会では、市の説明に対し来場者から、質問や意見・要望をいただき、それに対し市長が回答しました。

これらの質疑の内容を詳細に公表することにより、「2025年度清水庁舎の整備方針(案)」について情報を市民の皆さんと共有するとともに、理解を深めていただくことを目的とします。

3 公表する内容

市民の皆さんからの意見及び市長の回答は、ほぼそのまま正確に記載しています。また、説明会当日、時間の制約からお答えできなかった事項について補足回答を加えました。

以下のとおり網掛けにより色で分け、意見、質問、要望、市長による補足回答を示しています。

「黄」網掛け・・・意見、質問等について、市が回答する部分、(1)等の番号は
市が追記

「青」網掛け・・・「黄」網掛けに対する当日の市長の回答

「緑」網掛け・・・2025 年 11 月 25 日付け、市長による補足回答

《公表 URL》

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2594/s013046.html>

担当：財政局 管財課(054-221-1602)

<市民 A>19:34~19:38

清水の街に 65 年住んでおり愛着がある。年寄りはいませんが、これから先の子や孫が心配。(1)南海トラフ巨大地震に関する津波についてどう考えているのか。今の説明にもなかったし、市長さんの記者会見にもないですよ。これが一番ではないかと思う、ほかのなにをいっても。JR 清水駅東口駅前、海岸から 100m もない。改修するという方針だった現在の区役所は、海岸から 5~600m あり、現庁舎と海岸の間には色んなビルがあり、そこに対しては比較にならない。その辺りを考えたうえで、なぜ駅前にしなければならないのか。以前から、清水のまちを集中的にまとめなければならない、所謂コンパクトにするという発想があるが、その中心が JR 清水駅というのは何も書いていない。そこを勘違いしないで欲しい。清水の中で中心をどこに持ってくるのかというのはこれからのことなんです。一つの例としては、旧桜ヶ丘病院があった場所は、あそこだったら高さも全然違いますから、すごく安全な場所ですが、そちらの方のことをなんで考えないのか。色んな市民の会議と言いますか集まりでは一番意見が多いです。それを置いて清水の駅前になぜ持ってくるのか。津波がすぐ来ます。(2)津波の怖さというのを市はご存じないのではないかと。ただ波が来るだけではないか、波というのは岸壁に沿っていくだけというような話を市の危機管理課の方が言っておられて唖然とした。そういう発想で考えている。これはとんでもないことだ。質問としては、(3)なぜ駅前を候補地としてあげているのか。それに対してお答えをいただきたい。

⇒(市長)19:38~19:50

はい、ご質問ありがとうございました。それでは、私からお答え申し上げます。ちょっと暗くさせていただいて、お手元の資料を見ていただく必要はないと思いますので、こちら(投影資料1)を見ていただきたいと思います。

【(1)への回答】まずこれはハザードマップです。先ほど津波の怖さを知らないのではないかというお話がありましたが、私、国土交通省の海岸企画官、それから災害対策室長、港湾局の災害対策室長をしております、ハザードマップの作成は私が主導でやりましたので、プロ中のプロと自負しております。これは、それに関するハザードマップということになりますけれども、これを見ていただいて、まず「レベル2」の津波です。これは 1,000 年あるいは 1,500 年に 1 回来る津波の時に、どれくらいの浸水深になるかという図です。ここ(元清水駅東口広場)は浸水深が 1.9m~2.4m で防潮堤が全く効かない場合の数値です。ご指摘のとおり海岸から非常に近いのは事実です。現清水庁舎と全く違うというお話がありましたが、現清水庁舎の浸水深は 0.9m~2.3m です。それほど違いはありません。ただし、こちらはご指摘のとおり海岸から少し離れていますので、津波到達時間は変わってきます。現清水庁舎の位置はどちらかというと巴川を津波が遡っていく可能性があります。

一方、「レベル1」の津波です。これは南海トラフ地震のような 100 年から 200 年に 1 回来る津波になります。こちらの場合、現清水庁舎の浸水深はなし、元清水駅東口広場は浸水深が 0.1m~0.6m となります。ここ(JR 清水駅東口海岸沿い)は今、防潮堤がない状態ですが、将来 2.0m~2.5m 程度の防潮堤ができる予定です。また、ここ(道路部分)には陸間を設けますので、JR 清水駅東口周辺はほぼ浸水をしなくなります。そして JR 清水駅西口も浸水をしていない状態となります。したがって、「レベル1」の状態の時には JR 清水駅西口からペDESTリアンデッキを通して、こちら(元清水駅東口広場)に行ける状態となります。防潮堤が壊れれば浸水しますが、ここ(元清水駅東口広場)は湾の中に位

置しているので、津波のエネルギーの大きさは相当減衰しています。防潮堤があれば浸水をしなないと想定されますが、最悪の事態を想定して浸水する場合でも、浸水深が0.1m～0.6m程度の浸水深となります。

庁舎の構造ですが、現在のさくら病院を見ていただければ一番よくわかると思いますが、1階を駐車場などのピロティ形式で造っていきたいと思っています。

また、ペDESTリアンデッキがどのくらいの高さにあるかということ、デッキ下部の高さが標高 6.4m～7.1mとなっており、地盤高さは 1.5m～2.0mとなっており、「レベル1」の場合は、この程度の浸水深(1.6m～2.6m地盤高さ含む)で、「レベル2」の場合は、かなりの浸水深(3.4m～4.4m地盤高さ含む)となります。いずれもデッキよりも下が浸水することになります。

【(3)への回答】庁舎はどういう形で造るかという、2階をデッキの高さに合わせますので、1階には何も無い状態で、2階以上を使っていくことになります。ご懸念のとおり、津波浸水区域に庁舎を造ってどうするかということですが、大事なことは、その時に何が起きるのかということです。それを考えるのが一番大事だと思います。最悪の事態の想定が大事だと思いますので、ここ(元清水駅東口広場)に庁舎があった場合にどういう状態が一番危ないかということですが、河岸の市もありますので、日曜日の昼、この辺り(JR清水駅東口周辺)にたくさん人がいるという状態が非常にまずい状態だと思います。津波の場合にはペDESTリアンデッキを通じて庁舎に入れますので津波避難ビルとしても非常に有効です。1階の部分は浸水しますが特に問題はないと思われます。

もう一つ、非常に細かいお話したいところですが、逆に私が喋りすぎても申しわけないので、後ほどご質問があるかと思いますが、電源のことをご懸念されているかと思しますのでご説明します。今マリナートやさくら病院の電源がどこから来ているかと申しますと、中部電力の系統電源ではありません。津波が来た時どうい状態なのかというと、大地震ですのでおそらく系統電源と言われる中部電力から供給される電源は切れていると思います。今の電源は愛知県の発電所から来ておりますので、このあたり一帯は停電するのが普通だと思います。今もし地震が起きて停電した時に、さくら病院やマリナートがどうい状態になるかということ、電源はENEOSの用地にある太陽光発電で発電をして水素で貯めた電源が供給されています。中部電力の系統電源は使っていません。ですから、実は1番強いんですね。つまり、系統電源という遠くから引っ張ってくる電源はどこかで切れる恐れがありますが、ここは地域独立型で電源を取っています。ここを見ていただくとわかりますように、非常に高い位置にあります。ここは浸水しません。この辺りで唯一浸水しないのは、この白い部分、ここの中に ENEOS の発電所があります。この発電所からマリナートとさくら病院には電源が供給されていますので、ご安心ください。さくら病院が実は非常に電源に対して、津波に対して強い状態です。ここ(元清水駅東口広場)に庁舎を造った際にも同じ状態になります。それでも心配ですので、庁舎2階以上に独立の非常用発電設備を設けます。これで1番目に何かあっても(地域独立型の)電源は供給されていますが、万が一何かあっても(庁舎内の)独立した電源でやっていけるということになります。したがって実はここ(元清水駅東口広場)に造るというのは災害に非常に強いということになります。現清水庁舎は、系統電源が切れると独立した庁内の非常用電源設備で対応せざるを得ませんので JR 清水駅東口エリアよりも弱いという状況になります。先程ご質問の中で、旧桜ヶ丘病院辺りを候補地にとありましたが、清水のまちづくりにおいて旧桜ヶ丘病院の場所で新しくまちづくりをする余裕はありません。将来のことを考えるとやはり交通の便のいい JR 清水駅がまちづくりの中心だと思います。

最後に一つだけ申し上げますが、これは(「レベル2」津波資料)は 1,000 年から 2,000 年に1回起きるかどうい津波に対する浸水深です。皆さん清水庁舎は毎日

お使いになるわけです。1,000 年に1回の時にどうなるかということに対して対応を優先するのか、毎日の利用を優先するのかどっちがいいかということです。その 1,000 年に1回の時にまったく対処できないということであれば、これはやめた方がいいと思います。先ほど申し上げましたとおり、電源だけの話をしましたけど、電源についてはどうなっているのかということ、ということなので、対処できますね。こんなことを考えていくと、全てここで特に問題なく津波が来ても対処できると考えています。以上です。

<市民 A>19:50

(4)先程お話いただいた「1,000 年に1回だから」というのは、一般の市民にとってはものすごく強く感じられて、「1,000 年に1回」というのは、明日かもしれないし、明後日かもしれない、たった今かもしれない、そういうことを考えると「1,000 年に1回」と「毎日」を比較することはおかしいのではないかと思います。

⇒(市長)19:51

【(4)への回答】そのような考え方もあるかと思いますが、別の考え方もあると思います。あえてここでは申し上げません。

(2)についての補足回答

過去 10 年間に危機管理課に在籍した、退職者を除く現職職員 60 名に確認したところ、ご指摘のような発言を行った職員は確認されませんでした。発言者と面識があると回答した職員は 4 名いましたが、いずれも当該発言をしたことも、またそのような発言を聞いたこともないとの回答でした。なお、危機管理課では、津波ハザードマップを作成するとともに、市民や事業者からの問合せや啓発活動を通じて、津波浸水のリスクを繰り返し説明しております。日常的な発言や使用する資料においても、ご指摘のような内容は一切確認されておられません。

津波の怖さをご存じないのではないかとのことですが、回答で述べているとおり、JR 清水駅東口海岸沿いに到達する津波に関しては、湾の中に位置しているため、津波のエネルギーが相当減衰しています。ハザードマップでお示したとおり、「レベル2」の津波の時に、元清水駅東口広場で浸水深が 1.9m～2.4mとなります。

(4)についての補足回答

南海トラフ巨大地震の発生確率は1000年に1回のレベルと考えられています。一方、南海トラフ地震の発生確率は国による発表では2つの計算方法で示されており、今後30年間の発生確率は、計算方法の1つでは60～90%程度以上とされています。これは100～150年間隔で過去に発生した南海トラフ地震(レベル1)の発生確率とみなされます。

市長の発言は「毎日」と「1000年に1回」を比べているのではなく、「毎日の利用の利便性が重要」、「1000年に1回の津波に対しても何らかの対処が必要」であることを述べています。

確かに、1000年に1回の発生確率であっても、今日、発生することは否定できません。よって、それへの命を守る備えは必要です。しかし、その発生の可能性は極めて低いと認識しています。

また、発生確率が比較的高いレベル1の津波に対しては、人的被害をゼロにするとともに、物的被害を縮小させる防災の取組が必要です。

詳しくは市が公表している、

「レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態」と「発生形態を理解した上での対処方法」
についての基礎情報
を参考にしてください。

<市民 B>19:51~19:52

(5) JR 清水駅東口に移転した場合、ホテルやオフィスなど入れるとのことですが、これは何かあてがあるのですか。それから (6) 1階をピロティ形式で駐車場にするとのことですが、これはかなり危険です。塩害で津波が来た場合、バッテリーが起因して過去に火災や爆発が発生した事例がかなりある。先ほどの質問に戻りますが、(7) ホテルやオフィスなどが入る場合誰がお金を出すのですか。市が出すのですか、ホテルが出すのですか。

⇒(市長)19:52~19:56

民間施設の導入、PFI/PPP の導入も考えておりますが、移転をするかどうかという話の中にその話を入れてしまうと非常に話が複雑になりますから、その話は除いておいて、今の庁舎を単純に移転した場合の費用を比較しました。(PFI/PPP の導入は)次にもっと安くできる方法はないかということです。【(7)への回答】ホテルやオフィスなどを造る時に市が負担するということは当然あり得ません。例えば庁舎とホテルやオフィスなどが入れるような建物を市が造ったとすれば、それは買っていただくか借りていただくこととなりますが、莫大な費用が掛かるため市がホテルやオフィスを直接造ることは考えておりません。では誰が造るのかというと、その時はよく言う PFI です、民間事業者の資金力を活用して造っていくということになります。その場合に、ある会社が建物を建てて市が買い取るか、例えば 12 階のビルが建って、6階分は市が所有します、残りの6階分は民間が所有するということもあります。あるいは、建物全部を民間が所有して市が借りるということもあります。市が借りる場合は初期投資が一切ありませんので、賃料だけになります。借用期間は別として市としては初期投資しなくてよいので助かります、それはまだわかりません。【(5)への回答】誰がそこを整備するのかはこれから相談をしていきます。これから民間事業者の方々にここ(元清水駅東口広場)を開発するとすれば興味ありますかなどそういったことを確認します。興味がないとなれば市が単独で庁舎を建てることとなります。その場合であっても、現庁舎の改修案よりも移転新築案の方が評価が高いのでそちらを選ぶことになります。もう一度言いますと、民間事業者の方が出て来られるとさらにコストは下がります。一等地を使ってもらうということですからその分だけ市にお金が入ってきます。何が一番望ましいかということと全部民間事業者に整備していただいて市が区分所有するか、借りるかです。これを神戸の三宮で実施しておりまして、他にも有名なところでは豊島区役所です。豊島区役所は区役所とマンションの合築になっています。色々な形態がありますので、この場合はマンションというよりも、オフィスとホテルが一番可能性が高いのではないかと私は思っています。いずれにしてもオフィスとかホテルを市が造るということはありません。

<市民 B>19:56

(5) 同じ今はあてがあるのですか。ないのですか。

⇒(市長)19:56

【(5)への回答】あてはこれから相談しますが、あてがあるかないかと今回の選択は関係ありません。つまり、市単独で建てても移転新築案の方が優位であるということです。ホテルやオフィスの導入はさらに優位になるということです。仮に話がまとまらなくても移転新築案の評価が変わることはありません。

(6)についての補足回答

ご指摘のとおり、東日本大震災において発生した火災の原因の一部に、塩水による自動車等の電気配線のショート、漏電等が報告されています。1 階のピロティ部分には燃えやすいものを設置しないので、延焼は防げると考えています。

また、新庁舎付近には、延焼しやすい木造家屋は少なく、不燃構造物が多いことから、火災に対しても安全性が高い地区と考えています。

<市民 C>19:57～19:58

市民の関心が新しいスタジアム建設に向かっている時に、庁舎の方を先に出してしまうと、これは前市長のリコールの原因になった案件ですので、鬼門ですからできれば避けていただいて、**(8)まず最初にスタジアムの建設を優先いただき、利害調整が絡むような庁舎の移転については後回しにしていきたい。いかがでしょうか。**

⇒(市長)19:58～20:00

ENEOS 地域づくりエリアは 14ha ぐらいの大変貴重な土地ですが、ENEOS さんと協議中ですので、確実に利用を進めていくということになります。ただ、今ここにタンクがありますので、最初にタンクを撤去します。それから先ほどのハザードマップでもありましたが、このあたりは少し低いので、市の中で考えているのはここを 6m ぐらいの高さまでかさ上げをしようと考えています。6m ぐらいまでかさ上げをすれば、津波が来ても安全な場所となります。将来仮に津波が来た時にここは防災拠点になります。しかし、整備にはかなり時間が掛かります。色々ご心配いただきましたが、**【(8)への回答】**まだこちら**(ENEOS 地域づくりエリア)の整備には時間が掛かりますので、それよりも先ほどお話のあったとおり、いつ地震が起こるかわかりませんので、すぐにでも手を打って庁舎を改修または移転をした方がいいという状況になります。今すぐ使えるこの場所(元清水駅東口広場)を使っていくということは時間的には最初に必要かと思っています。ご心配いただきましたが、そういう風にならないようしっかりと説明をしてまいりたいと思っています。**

<市民D> 20:00～20:01

元清水駅東口広場は現在イベントでにぎわっている、そこには庁舎が来ることになる。さらにその奥のENEOSの用地には今ご説明のあったとおり6mぐらいのかさ上げを考えており時間が掛かるとのことですが、**(9) 今やっているイベントの場所はどこをどう言う形で補うことを考えているのかお聞きしたい。**

⇒(市長) 20:01～20:02

【(9)への回答】実際4年間くらい使えなくなる可能性があります。その間にどこを確保するのかということですが、確かに頭の痛い問題ではあります。フェリー乗り場のところで、全部使用しているわけではないのでこの辺りをどうするかということがまず出てきます。それからかさ上げをしますけども、全部一度にかさ上げをするわけではないので、ENEOSさんにタンクを撤去してもらった時に空地ができますので、その空地をどうやって使うのか、かさ上げする前になにか使えるようにできないかとか色々考えられます。それからこの広場(さくら病院横)、車寄せとかありますけれども、ここも使われていないのでどうするか、それからデッキ下の部分もあります。このあたり一帯(エスカレーターの先の土地)でできないか。それから駅を出たところもあり使えていないので、全体としてうまくできないのかなということがあります。色々ご指摘の問題があると思います。駅前銀座(商店街)の方も色々なイベントをされていて賑わってきていますのでこちらを活用していくという方法もあると思います。ご心配はそのとおりかと思いますが、その辺りはしっかり考えていきたいと思っています。

<市民E>20:03~20:05

先ほど出た意見に賛成なのですが、旧桜ヶ丘病院跡地に新しい区役所を建ててそこでまちづくりをするというのは市民レベルとしては非常にいい案だと思います。なぜなら区役所に行くのに一番安心な場所だからです。赤ちゃんを連れたママさんなんかが行くときに海よりも桜ヶ丘病院の跡地の方が安心していられます。市長さんはまちづくりとおっしゃいますけど、(10)海辺に区役所を造ってまちづくりを発展させるのであれば、今ある駅前銀座とか他のまちにもっとお金を掛けて発展させるようなことも考えてほしい。どういう風なまちにしたらいいかというのは、清水区民のみなさんにもっともっと意見を出しあってもらって詰めていくべきだと思います。それより先に海岸沿いに区役所を移してまちづくりをするというのは問題があると思う。

⇒(市長)20:05~20:07

ありがとうございます。そういう意見もあると思います。ただ、【(10)への回答】JR清水駅を中心にまちづくりをしていくというのは私が市長になる前から5年ぐらいかけてずっと話をしてきています。それをまた議論するというのではなく、清水のまちづくりはJR清水駅の周辺でしっかりとやっていくというのが以前に検討されて十分議論されていると私は思っています。旧桜ヶ丘病院跡地にまちづくりをするとなると、逆に清水の駅前銀座だとか商店街から離れた場所となるので、ますます駅前に人が集まらなくなります。やはり駅前に人が集まるようにするというのが大事だと思います。そしてENEOS地域づくりエリアで新しいまちづくりをしますので、清水駅の東口と西口両方をにぎやかにしていく、人が集まる場所にしていく、そして市民の皆様が来やすい場所にしていくのが大事だと思います。お子様の話がありましたけれども、一番大事なものは交通です。皆さん車で来られるわけではないので、公共交通機関を利用して来られるので、公共交通機関は区役所だけで成り立つものではありません。やはりJR清水駅という交通の結節点があるからこそ、そこにバスや便が集中してきます。その上で庁舎を旧桜ヶ丘病院跡地に移すとなると非常に交通の便が悪い状態となってしまいます。さくら病院が移転しましたけれども非常に評判がいいです。それはやはり利便性が高いからです。ですからまちづくりはJR清水駅を中心にやっていきたいと考えておりますし、それについては既に十分議論されたと理解しております。

<市民E>20:08~20:09

反論させていただきます。(11)さくら病院に通っている人は非常に不安がっています。なぜか。津波がいつ来るかわからないからです。そこにしかない科に通っているの、行くしかないのですが、いつも不安を感じながら通っていると言っていました。そういった点では、既にできてしまったが、さくら病院があそこに移転するのも問題があると思っています。それから(12)交通の面は、静鉄さんとかが色々便宜を図ってできるはず。駅前に造らなくても、(13)新しいまちを桜ヶ丘の方に移す方が市民としては、これから生活していく人たちにとっては安心安全なのです。津波が来るかわからない場所に誰が行きますか。自分の子供や孫たちが行って死んでしまったら誰が責任を取るのですかといつも私は思っています。そういうことを考えてほしいです。

⇒(市長)20:09～20:10

私からも一言だけ反論させていただきます。【(13)への回答】今どこに人が集まっていますか。それだけ不安であれば、JR 清水駅のところに誰も行けないです。河岸の市になんてあんなに人が行っているのでしょうか。あれほど駅前にあるところはないからです。マリナートも同じです。マリナートも駅前にありますよ。マリナートの1階は津波浸水区域にあります。不安だったら誰も来ないというお話です。色んなご意見がありますので、これからパブリックコメントをしまいいりますので、その中で多くの方からお伺いしたいと思っております。

(10)についての補足回答

旧清水市の人口は1975年(昭和50年)をピークに減少しています。このままでは中心市街地の商店街すら維持が不可能となります。単に駅前の商店街にお金を掛ければ駅前が活性化するというものとは考えていません。清水駅東口・西口一体のまちづくりが必要と考えています。

(11)についての補足回答

清水さくら病院に通っているごく一部の方が不安がっていることは否定しませんが、以下のとおりの清水さくら病院の状況から見て、清水さくら病院に通っている多くの人が非常に不安がっているということはないと考えます。

<桜ヶ丘病院と清水さくら病院の入院患者数、外来患者数の比較>

	4月～10月		期間計	期間計 増減
	入院患者数	外来患者数		
2024年(令和6年) 桜ヶ丘病院	27,698	33,528	61,226	
2025年(令和7年) 清水さくら病院	30,697	34,814	65,511	+4285

(提供)清水さくら病院

<清水さくら病院に聞きとり>

病院へ様々な意見が寄せられる中、これまで新病院に対し津波で不安という意見はありません。2025年7月に津波警報が発令されJRが止まった際も、皆さん病院に残ってもらい感謝されました。

(12)についての補足回答

現在、清水庁舎に直接乗り入れる路線バスはありません。それは、需要が少ないからです。旧桜ヶ丘病院跡地へはバス路線が1本しかありません。仮にこちらに庁舎を建設した場合、公共交通機関の結節点である JR 清水駅で降りたのち、当該バス路線へ乗り換える必要性が生じます。

現在、静鉄バスは市全体のバス需要の減少と人手不足等に伴い、バス路線を徐々に縮小しています。旧桜ヶ丘病院跡地の新庁舎に利便性の良いバス路線が静鉄バスにより設置されることは期待できないと考えています。



<市民F>20:10~20:12

今すぐ地震が来るかもしれないからマリナートに行けないとかそういうことではないです。(14)30年の間に南海トラフ地震がほぼ100%来ると言われている、(15)もし10年後に来て60何年使える庁舎が残りの50年使えなくなったらどうなるのか、そういうことを考えてください。区役所の建物は残るかもしれませんが、ただ区役所に行く道が通れなくなる。東日本大震災で原発のせいもあるが入れなくなった、地元に住めなくなった人がたくさんいるわけですよ。もし本当に地震が起こって病院が浸水したり、マリナートみたいな施設が使用できなくなったら清水の市民にとっても、その後の復旧までの期間を考えると大損害です。今来るか来ないかと、ビクビクしている人はそれほどいないかもしれないけど、その後の損失がものすごく苦痛だと思います。(16)東日本大震災、僕らもテレビで見ました。関東大震災はテレビで見てないからわかりませんが、せいぜい5~6mの防波堤なんてすぐ乗り越えてきてしまうと思います。(17)貴重な病院や区役所が防災拠点になるわけですね。その防災拠点に市の職員が向かえない、そういうことも考えられると思います。(18)性能点の中では同じ点数がついていますが、こういう評価をする基準は命やくらしを第一に考え、二番目に失礼ですが産業とかにぎわいに関することではないでしょうか。まず命とくらしを守る、そういうことを第一に考えてもらいたい。意見です、答えていただかなくて結構です。

⇒(市長)20:13~20:15

ありがとうございました。まず、(17)への回答これ(投影資料2)は地震が起きた時に道路をどう確保していくかという計画で今考えています。24時間以内、48時間以内、72時間以内にどう復旧させていくかということですが、ご指摘のとおり海側の道路はなかなか復旧ができません。やはり中側から復旧していくのが大事で、見ていただくとわかりますように駅前(西口)はあまり浸水しませんから、ここからペデストリアンデッキを通過して、こちら(東口)に入っていくというのが一番ルートとして可能性が高いと思います。そして、(15)への回答津波が起きた時に庁舎が壊れたらというお話でしたが、壊れないように新しい庁舎を造ります。今の状態では危ないので、ここ(元清水駅東口広場)に移転をして津波が来ても地震が来ても大丈夫な耐震性、耐津波性のある庁舎を造る、そして電源をしっかりと確保するというのをやるので、ここで壊れたらどうかというお話は、なかなか同意できないところです。清水はご指摘のとおり心配なのですが、何が心配かというと津波が起きた時に巴川から遡ってきて浸水してしまうので、今大事なことは巴川河口水門を県と一生懸命造るということで検討しています。河口水門を造って、そしてこの辺り(JR清水駅東口海岸沿い)に防潮堤を造って清水のこの辺り(海岸沿い)の浸水を減らさない大変なことになります。したがって清水庁舎ひとつをどうのこうのという問題ではなく、今清水に求められているのは、この中心市街地の地震に対する防災力をいかに高めるか。そのためにはここ(巴川河口)に河口水門を造り、この辺り(海岸沿い)は現在無堤状態(防潮堤がない状態)であるので、急いでこれを整備するというのが極めて大事になってきます。現在そのような状況です。

(14)についての補足回答

「30年の間に南海トラフ地震がほぼ100%来ると言われている。」については、そういうことを言っている方がいるかもしれないことは否定しませんが、国が発表している南海トラフ地震の発生確率は、今後30年の間に、20～50%と60～90%程度以上という2つです。今後30年間に発生する可能性が高い地震・津波はレベル1のものであり、これに対し、新庁舎が使えなくなるような事態となることはないと考えています。

詳しくは市が公表している、

「レベル1とレベル2の地震・津波の発生形態」と「発生形態を理解した上での対処方法」についての基礎情報

をご覧ください。

(16)についての補足回答

市民Aの方にご回答しましたが、JR清水駅東口海岸沿いに到達する津波に関しては、湾の中に位置しているため、津波のエネルギーが相当減衰しています。レベル2(その中でも最悪の事態)の津波が起きた時の津波高は、JR清水駅東口海岸沿いでは3.9mと想定されています。よって、テレビで見た東日本大震災のような津波で5～6mの防波堤をすぐに乗り越えてしまうようなものと、清水駅東口海岸沿いに到達する津波では、現象が異なると考えています。

(18)についての補足回答

「改修案」と「新築案」を比較する際に、性能点の評価項目に重みづけは行っておりません。いずれの評価項目も庁舎の評価になくてはならない重要な事項だからです。市民の皆さんの命に直結する地震・津波に対する庁舎の防災力は、検討の大前提であるので、そこに不安があるような整備案はそもそも比較検討の案としてそぐわないものだと考えています。最適であると判断した「新築案」により、現在の庁舎よりも防災力を高めて、まちづくりをすることが可能となり、それが清水のまちの再生に繋がると考えています。

<市民G>20:15~20:22

私が中学1年ぐらいの時に前の庁舎ができて、その時のオープンでガラス張りの庁舎を見たことがあります。それから65~70年程度経ちますけれども、もう二つ目の庁舎を移転させようというのが今日のお話なのですが、元々前から移転の話は前の庁舎の時からありました。昔で言えば、清水市庁舎ですから議会においても3分の2以上の特別議案になります。今回新しい静岡市の中では、清水区は3分の1しか議員がいませんから、仕方ないのですが多分通ってしまうでしょう。仕方ないと言えば仕方ないのですけれども。

(19)今回、市議会議員の方にどれだけ話をされているのか、話をしないでいきなりこちらに来たのかということに疑問があります。それからもろもろの説明は、それぞれもったもなことでしょうからやっていることがまずい、嘘ということは言いませんけれども、合併して20年、当時水道局がありました。それからほかの機関もありました。しかし、誰も頼まなかった水道局を新しく静岡に造ってしまった。当時の市長に聞きましたが、お金は内部留保金があるから一切関係ないですと、ですから造ります。どうしても造りますと。造ることが先行して、オリンピック前の景気で急に鋼材が3倍の値段になったから、ちょっと待ったらどうだと言っても高い値段で再契約をして造った。出来た途端に土砂降りですよ、土砂漏れ。そんなことがありました。それぞれ時間経過がありますけれども、田辺さん最後の時に興津川で取水ができなくて清水区は水が無くて大変な思いをしました。しかし内部留保金をそこで使ってしまったこともあって、今水道料金が上がりましたよね。併せて下水道料金も上がりました。仕方ないことかもしれませんが、やはりしっかりした形で造っていただければお金はまだ使えたのかなと思っています。水道局が移って、その当時200人以上300人近く静岡庁舎の方へ移りました。今回これを見ていますと、この庁舎が移ると1,000人規模で居なくなります。そうなるとこの地域はますます流動人口が少なくなって疲弊をします、経済的には。寂しいまちになります。駅前はその分増えるかもしれませんが、ここをどうするのか。同時並行で考えて、この地域の人たちにしっかりと説明をし、理解を求めて初めて進めていくことではないでしょうか。なにも説明がなく、いきなり移りますよと、後はパブコメをやって11月議会で説明して来年の2月にはGOサインで行きますよと、それで出来上がりは5年後ぐらいになるということですよね。それから

(20)有識者の意見にも出ているように、グランドデザインができてないのに、なぜ駅前の一等地に庁舎を造る必要があるのかという意見が、有識者の一人かもしれませんがしっかりと書かれていますよね。市長さんはまちづくりについては延々と長い間掛けて理解をいただいていると言いましたがあなたの考え方です。残念ながらグランドデザインはないのですよ。それに対してあなたも既成事実としてあるかのように進めているのはちょっとおかしいのではないかと思います。併せて先ほど出ましたがENEOSの新しい問題が浮上しています。今度は土地利用のことも市が入っています。それから前々からあります水族館の問題も宙に浮いています。それから東静岡のアリーナ構想もあります。大きなプロジェクトがやり方はPFIとか色々あるかもしれませんが、いずれにしても市のお金が入っています。先ほどから水門の話があって、陸閘の話もあって併せてやらなければならない。(21)水門ひとつ造ったって、あなたが県にいた時に沼津の水門の話もわかってらっしゃるかと思いますが10年以上掛かっているはずですよ。国の財政も厳しいですからここだけが全国一ということはないですから。ここだけ特別に国がたくさん予算をくれるということはありませんから。県だってそうですよね。

⇒(市長)20:22

ちょっと時間をお一人だけに掛けるわけにはいきませんので。

<市民G>20:23

そういうことを考えると、順番をもう一度正しく出していただいて、お金の問題も併せて。私たち市民から、(22)道路を夜走っていただければわかるのだけでも、白線が非常に剥がれているところが多い。

⇒(市長)20:23～20:24

【(21)への回答】よろしいでしょうか、色々ご心配があるかと思いますが、まず申し上げますけども、巴川の河口水門は今必死でやっています。10年以内に必ずやるつもりで県と調整をしています。国からお金が来ないのだったらどうかなどと言っているかもしれませんが、国には要望活動を先日から何回もしました。そうやって必死でお金を持ってくる努力をしています。ですから、できるかできないかわからないというようなことを言っているてもどうしようもないわけです。私も政治家ですので「10年以内にやる」、そのつもりで今取り組んでいます。それだけは申し上げておきたいと思います。それ以外にも色々ありましたが、全部お答えすると時間がありませので申し上げますが、まちづくりですね、水道局が七間町に移った問題とここからJR清水駅に庁舎が移る話を一緒にしてはいけないと思います。全然レベルが違うわけです。あれは清水区から葵区に人が移転してしまったのです。それが非常に大きな問題だと私も思います。ここは中(清水区内)で移ります、しかもどのくらい離れているのかということなんです。確かにご地元の方にはご心配を掛けますし、それからこの地区の未来について不安を感じるかと思いますが、それはそれでまた考えていかないといけないのです。この庁舎も潰すわけではありませんから。どうやって有効活用するか、この中に人が集まるようなことをなんとかできないかということを考えていきたいと思っておりますので、そういった点でご理解を願えればと思います。

<市民G>20:25

(23)1つだけ要望ですけれども、最後に言われたこの庁舎のことについて、役所ペースではなくて、地域の人と話をしながら積み上げていくという、そういうことが今まで足りない部分がありますからそのことだけは約束していただきたい。

⇒(市長)20:25～20:26

【(19)(23)への回答】はい、ありがとうございます。言い忘れましたが、市議会に説明したのかということですが、これはパブリックコメントと市議会での議論がこれからずっと続いていくことになります。これは(案)ですので、決めたわけではないわけです。ですから、まず市民の皆さんからご意見をいただいた上で、市議会の中でも活発な議論を行えると思います。その上で決めていくということになります。それからご地元には今日は全体としての説明ですが、しっかりと説明してまいりたいと思います。

【(20)への回答】それからもう一つ言い忘れましたが、ランドデザインのお話がありましたが、ENEOSのこの場所のランドデザインは3月までには書きます。今ENEOSと調整していますのでこの場所をどうするのかということなんです。日本平のスタジアムも

現位置改修かこちらに移すかという議論をしていますけど、これは1月末までに方針を決めて2月の議会に掛けます。もちろん市民の皆様にもご意見を伺うということになります。したがって、来年の3月末までには ENEOS の地域づくりエリアのグランドデザインを書きますので、そのグランドデザインと仮に清水庁舎をこちらに移すとなれば一体となって考えていきます。

(22)についての補足回答

ご質問の意図がわかりかねますが、ご意見として承ります。

<市民H> 20:27～20:29

皆さんこれだけ不安に思っています。津波のこととか自分のまちがどうなるのかとか。5年間色々検討してきたということで終わりにするのではなく、例えば焼津もそうでしたが、海に建てるのか山に建てるのかということをしっかり住民投票を行っています。沼津も同じように奥の方に建てるのか今の現庁舎のように海に近いところに建てるのかということをしっかりやっています。何年か前にうちも住民投票を提出した時にあっさり議会に否決されました。(24)そういうことがないように、住民の意見をしっかり聞いて出来たら住民投票ぐらいはしっかりやっていただきたいと思います。私も江尻・辻で育って、商店街がさびれて人口が減って、静岡が政令都市の中で一番足を引っ張っているのは清水区というのはすごくよくわかっています。でも、カミさんは役所に勤めています。役所で津波にあって亡くなってしまうかもしれません。そういう恐れがあります、心配があります。でも同時に地域を活性化して欲しいという思いも持っています。カミさんの新潟の長岡というまちは、郊外にあちこち色々店舗が出来て、市役所をまちの中に持ってきてまちの中は活性化しています。そういうまちもあります。どちらがいいかわかりませんが、(24)つづきどちらがいいか判断するのは住民だと思いますので、ぜひ住民投票なりをやってください、住民の意見をしっかり聞いていただきたいと思います。それが要望です、よろしくお願いします。

(24)についての補足回答

今回の方針(案)については、「パブリックコメントの実施」「本説明会での意見交換」に加え、市民の皆さんのご意見を広く把握するため「市民アンケート等」を実施するなど、複数の手法で幅広く市民の皆さんのご意見をお聞きします。

<市民I>20:29～20:30

資料 14 ページの新築案のところに 169.5 億円という記載があるのですが、この中の資料にはないのですが、専門の方が算出されているかと思うのですが。重要な質問なのですが、静大の新妻先生が草薙断層というものの想定されています。それとその周りに国に係る産総研が活断層のラインを引いている。**(25) 基本的な考え方として活断層からどれくらい離れたら耐震診断とか耐震設計ができるのか。**ある先生は 200m 以内であったら計算ができないとお話をされているが市長さんはそれをどういう風に思われるか。

⇒(市長)20:31～20:32

はい、ありがとうございます。まず活断層は日本どこでも非常にたくさんあります。活断層も何年に1回動くのかということが問題になります。1,000 年に1回なのか 5,000 年に1回なのか。**【(25)への回答】**活断層がいつ動くのかというのは今の地震学の中ではわかりません。したがって活断層を考慮して設計するということはほぼありません。明らかにすぐ動くであろうという活断層の横に造るということはありえませんが、そうでなければ活断層があったとしても造るということはあり得ると思います。ただ、原発のようなところについては、ものすごく議論が必要になりますけども、庁舎で活断層のことを気にしていると日本中どこでも建てられないという状況になりますので、そういうご意見もあるとは思いますが、活断層の問題はここでは考慮しておりません。

<市民J>20:32~20:37

行政というのは当初作った計画、総合計画ですか、それに沿ってあくまでもやるのだなと感じました。色々な変化がありまして先ほど説明がありましたけども。私は桜ヶ丘病院の移転反対をやりました。その当時からずっと思っていることは、津波浸水区域に医療機関、行政機関、小学校を新たに新設するということは反対です。これは当時やりました住民投票の主旨です。その考えは今も変わっていません。(26)なんで今あそこ(元清水駅東口広場)に新庁舎を建てるのかというのは説明を聞きましたのでわかりましたけれども、そんなに慌てることないのではないかと思います。あのエリアににぎわいをつくるというのは賛成です、協力もします。しかし、もう出来てしまいましたけど、病院も区役所もにぎわいを生み出す積極的な施設ではありません。あくまでも民間の人たちが、あるいは健康な人たちがご利用いただく、それは当然です。ぼくもあのエリアであってもやります。行政がなくてはいけないのは、万が一災害が起こった時にその人たちを避難させてあげること、これが一番大切なことだと思っています。まちづくりというお話がずっと出ていますが、まちづくりとにぎわいづくりだけで言っていますけれども、欠けているのが住民の安全の観点。ずっと思っています、今も思っています。それからもう一つ、回答はいりませんけれども難波市長の独特の進め方、静岡新聞で方針が新築に決まったような報道が出ました。報道機関が書いたことですから、あれはちょっと難波市長が言ったとは申しませんが。そういうことがあってこの説明会、パブリックコメント、今度の議会で市民の代表である議員にお諮りすると、(27)だけど今日伺ったようなデータ、エビデンスこれは私も会社勤めをしていた時に経営企画にいた人間ですからよくわかりますけども、データがまったく嘘だと言うつもりはありません。しかし、トップがそういう思いを持っていれば部下の人たちはそういうデータを一生懸命作ります。

⇒(市長)20:37

【(27)への回答】に途中ですがよろしいですか。私は決してごまかしません。これは私が今、市の中でやっていることです。嘘や、データを捏造だとか、変な解釈はしません。これだけは申し上げておきたいと思います。市の職員は私からそれを徹底的に言われています。ですから今回のデータも徹底的に市の職員と議論しました。耐震性の問題も、それはどういう式でどういうことをやっているのか、どういう入力を入れているのか全部見ています。その中でごまかしは1点もありません。それだけは申し上げます。

<市民J>20:38

それを私は否定しておりません。

(26)についての追加回答

耐震性、老朽化の問題があり一日でも早く新庁舎の整備方針(案)を出し、整備することが必要です。

<市民 K> 20:38～20:40

「輝く清水をつくる会」という会をやっております。清水区が本当に輝くというのはどうということかという、「人々が生き生きと生活して楽しむ」という状態が輝くということを言っております。そういうまちになるように一生懸命頭をひねって私共は行政の活動にも協力させていただいております。今日の話ですが、10 項目質問がありますけども、記録して直接市長に渡したいと思います。その中の一つとして(28)区庁舎の本来のあり方、そのコンセプト、それはどういう風に考えて JR 清水駅東口に建てるのか、業務内容や市民サービスとかそういうものをどう考えているのか。今そちらにだいたい 60 年ぐらい先の話ですね、建物の。その先のことをどんな風に設計して考えていらっしゃるか。色々考えますと言っているがそのイメージが湧いてこない。本来区役所というのは、清水の文化でもあり歴史でもある建物であり市民の心のよりどころでもある。そういうイメージも全然伝わってこない。

⇒(市長) 20:40～20:41

いくつかご質問があるようですので、それはまたしっかりとお答えをしたいと思います。まず、ここは区庁舎じゃないですね、清水庁舎です。ですから、【(28)への回答】区役所機能はもちろんいれますけれども、経済局、これは市全体の経済局です。教育委員会もここにあります。それも全体です。仮に移転するとすればそこは区役所ではなく清水庁舎です。大幅に人数を増やすということは考えておりませんので、今の状態がそのまま移転すると考えていただくのが一番いいのかなと思います。

以上